

2020年 8月 4号 閃電疑惑を許さない！ いのちを護る教育を！ 平和憲法を護る！



伊藤左紀子さん逝く

岐阜市職員 伊藤哲さん「パワハラ自死」 公務災害訴訟をたたかった！伊藤夫人



写真左 女性は伊藤左紀子さん（哲さん夫人）男性は弁護士 写真右 会見場マスコミ各社

「泣かない日はなかった」（左紀子さん）と・・・

伊藤哲さん（市公園整備室長・当時）の「本庁舎8階からの転落自死」を「公務災害」として認めるように要求する裁判闘争を10年たたかった伊藤左紀子さん（70歳・哲さん夫人）の訃報が8月21日にもたらされた。急死である。写真は、2017年7月6日の名古屋高等裁判所の判決で、名古屋高裁が一審判決を支持し、地方公務員災害補償基金の控訴を棄却、判決確定の報告記者会見（弁護士会館・名古屋）での左紀子さんの笑顔。傍聴席は満員で、岐阜市人事課からも傍聴者があった。

判決を機会に、岐阜市では過労死対策強化がはかられる事になり、強化月間も設定された。左紀子さんは、「もう、こんな思いは誰にもさせたくない」と、自らの経験を活かし「過労死をなくす会」を設立（2019年）、運動強化を進めていた矢先であった。

連絡先 岐阜市議会議員 松原のりかず 岐阜市沖ノ橋町1-21 でんわ 253-2500

哲さんの死を公務災害

左紀子を支えるみんなの



写真 勝訴判決を聞いて笑顔の左紀子夫人（撮影 松原のりかず 表面も）

夫人から過分なお褒めの言葉を頂いた

「一審判決（勝訴）は、市会議員団の御蔭です」と夫人から過分な御挨拶を頂きました。一審の取り組みが二審 70 ページの反論文に結実。名古屋判決の日は、無所属 3 人、共産 2 人、無党派 1 人の市会議員と県議 1 人（民進）、元県議 1 人（共産）が出席し判決確認と、総括集会参加。県職内記委員長とは県教委の自死問題で意見交換出来ました。パワハラ問題への社会の感心はますます大きく。

過労死対策は、今、出来ているか？

上記の記事は、本紙 2017 年 7 月 2 号の伊藤夫人からの言葉を掲載したものです。

伊藤哲さんの自死事件は、細江市長（当時）の事件で、一審裁判に証人と呼ばれたのは河島部長（事件当時）。

当時の全国の自死の統計では、同格級都市では一年 0.44 人の自死でしたが、岐阜市は 1.0 人でした。毎年 1 人の自死、全国平均の倍以上の自死がありました。伊藤裁判を機会に、確に対策月間が作られましたが、残念ながら柴橋市長になっても自死は減少とはなっていない。

協力的でなかった労働組合（伊藤左紀子さん）

左紀子さんは、哲さんの裁判闘争をたたかうに当たり、岐阜市の労働組合の協力をお願いに行った時の事をはなしてくれた。その時、哲さんが管理職であることを理由に断られた事を「大変残念」に、そして「なさげなく」感じた。（細江市政最盛期）

10 年の裁判闘争に、ゴールが見えてきた時に、その組合が戦線に加わる事になった時、左紀子さんは何も言わなかった。

60 億円メディアコスモスの建築不良（雨漏り等）、51 億円もの中部電力との随意契約へ監査請求（後に競争入札導入で年 4 億円節約）、そして、伊藤哲さんパワハラ自死公務災害裁判の 3 点は、細江選挙を阻んだ壁となった。と、松原のりかずは思います。高裁判決確定後には細江市長を相手とした損害賠償訴訟の可能性が、立候補すれば、ありました。

哲さんのもとへ旅立たれた、左紀子さんのご冥福を、心よりお祈り申し上げます。



松原のりかず
☎058-253-2500